

キャリアコンサルティング技能検定2級 学科・論述・面接試験 体験記

平成31年4月21日

2級受検番号 NO:03S3120862 氏名:久米 廣志(東京在住)

| |
|---|
| ■2級技能士を目指したきっかけ |
| 人材サービス業界かつ人事業務に従事しており、社員のキャリア形成を支援していく上で2級技能士に興味を持ちました。 |
| ■当初の勉強法 |
| 学科試験については、社内合格者による講義と過去問をベースとした学習を行いました。 実技試験(論述・面接)については、1級キャリアコンサルティング技能士の会の方々の講義をベースとした実践的学習を行いました。 |
| ■合格のきっかけ |
| 私は、3回目のチャレンジで合格するに至りました。 これまでの自身のノウハウやスタイルが通用せず、積み重ねてきた経験が否定されているかのような感覚に陥りました。染みついた価値観やクセを取っ払わざるを得ない状況や試験でのシーンに遭遇してはじめて、本当の意味で相談者に寄り添うロールプレイとなったことが合格につながったのではないかと思います。講師をしてくださった方々や一緒に受検に取り組んできた仲間感謝申し上げます。 |
| ■学科試験の勉強 |
| 「キャリアの青本」に準拠した内容で全体像の把握を行うとともに、「キャリアの赤本」で学科試験の過去問を解くことを繰り返しました。正直なところ詰め込みになりましたが、試験数日前は過去問ばかりを解くことで、学科試験の要素を習得し、試験構成に慣れるように努めました。 |
| ■論述試験対策 |
| 試験1ヶ月前ぐらいから週末に1本程度、試験週にはほぼ毎日1本、前々日・前日は2本ほど過去問の記述を行いました。そうすることで記述することに慣れるということと、その中で自分なりの試験の進行パターンや構成方法を掴んでいきました。 |
| ■面接試験対策 |
| 試験1ヶ月前ぐらいから週末に1回程度、試験週にはほぼ毎日1回程度、受検者同士でロールプレイの練習を行いました。自分のキャリアコントロールプレイと口頭試問を録音し、それを後で聴き直したりしながら、自身のクセやパターンを掴みつつ、ケース別に想定し得る背景やパターンを洗い出すようにしました。逸る気持ちを抑えながら、前日はリラックスするようにしました。 |
| ■受検される方へメッセージ |
| 当初、この技能検定の勘所が掴めず、向き合い方にも迷いが先行していたのが正直なところでした。足掻いてさらに深みにはまることもありましたが、特に面接は、面接官・相談者・自身(キャリアコン役)による生身のやり取りになる以上、最後はありのままの自分で目の前の相談者に対応するしかない、と割り切ることが必要と感じました。努力+ありのままがポイントなのかもしれません。 学科は、要素の全体把握と多くの過去問に触れる機会を持つことが大事だと思いました。 論述は、思い悩むより実際に書き続けることが、記述に没頭できる力を生み出すと感じました。 面接は、ロールプレイの練習を重ねながら、最後は生身の人間同士として真摯に向き合えるかが大事だと思いました(私は、目標設定・方策が不十分に終わり、内心愕然としましたが、口頭試問で必死に補足しました)。最後まで目の前の相談者に寄り添うことをあきらめないで頑張ってください。 |